

皮膚そう痒症

監修 皮膚科 鷺尾 健医長

作成 薬剤部 堀 勇太

2022.4.20 改訂 薬剤部 森良江

[湿疹を伴っていない場合]

保湿剤(A)単独

抗ヒスタミン薬(B)+保湿剤(A)

[湿疹を伴っている場合]

抗ヒスタミン薬(B)+湿疹・乾燥対策外用剤(C)

(A) [保湿剤]

・ヘパリン類似物質油性クリーム 0.3% 「日医工」 50g

(B) [抗ヒスタミン薬]

・ベポタスチンベシル酸塩錠 10mg 「タナベ」 2錠分2：朝夕食後

・アレジオン錠 20mg 1錠分1：朝または夕食後

・フェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg 「SANIK」 2錠分2：朝夕食後

※腎障害がある場合

・エバステル OD 錠 10mg 1錠分1

・フェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg 「SANIK」 2錠分2：朝夕食後

※フェキソフェナジンは水酸化アルミニウム・水酸化マグネシウム含有製剤とは併用注意

(B) [抗ヒスタミン薬]

左記の通り

(C) [湿疹・乾燥対策外用剤]

・ロコイド軟膏 50g+ヘパリン類似物質油性クリーム 0.3% 「日医工」 50g

・ボアラ・ヘパリン類似物質油性クリーム等量混合 100g

※強い搔痒を伴う場合、下記外用薬を考慮しても良い

[湿疹病変が認められず、搔破痕が目立つ場合]

・レスタミンコーワクリーム 50g

・レスタミンコーワクリーム 80g+ハッカ油混合 3mL

(温熱刺激により搔痒感を生じる場合)

[湿疹病変と搔破痕が混在している場合]

・ジフルプレドナートクリーム・オイラックスクリーム 1：1 混合 100g

上記で改善しない場合、皮膚科コンサルトする。

あるいは、第2選択薬として下記の抗ヒスタミン薬にスイッチしてもよい。

・オロパタジン塩酸塩OD錠 5mg (先発：アレロック) 2錠分2 朝・眠前 (劇症肝炎の報告があり、肝障害例には不可)

・レボセチリジン塩酸塩錠 5mg (先発：ザイザル) 1錠分1 眠前 (倍量投与可)

・デザレックス錠 5mg 1錠分1 (倍量投与不可)

・ルパフィン錠 10mg 1錠分1 眠前 (倍量投与可)

<接触皮膚炎>

- ・ ジフルプレドナート軟膏 0.05% 10g 1日2回外用
- ・ サレックス軟膏（【般】ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル軟膏）10g 1日2回外用

上記で改善しない場合、さらに Strongest ランクステロイド外用を用いてもよい

- ・ デルモベート軟膏（【般】クロベタゾールプロピオン酸エステル軟膏）10g 1日2回外用
- ・ ダイアコート軟膏 10g 1日2回外用

※ステロイド内服は重症例に限るため、原則皮膚科コンサルトとする。

<顔面の皮疹>

軽度の皮疹の場合下記を用いてもよい。

- ・ ロコイド軟膏 10g 1日1~2回 顔

※顔面に強い炎症を伴う場合は、皮膚科コンサルトを考慮する。

アトピー性皮膚炎による顔面の皮疹の場合、下記が適応となる

- ・ プロトピック軟膏 10g 1日1~2回 顔（※使用する場合は皮膚科コンサルトとする）

※そう痒感や刺激感などがでることもあり、注意を要する。

<カンジダ性間擦疹>

- ・ ニゾラルクリーム 10g 1日1回外用

※上記に治療抵抗性の場合、あるいはびらん面が広範囲の場合は以下を考慮するか、皮膚科にコンサルトとする

- ・ ルリコン軟膏 10g 1日1回外用

<アトピー性皮膚炎など全身の皮疹>

- ・ メサデルム軟膏 100g 1日1回、あるいは2回外用
- ・ ボアラ軟膏 100g 1日1回、あるいは2回外用
- ・ サレックス軟膏（【般】ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル軟膏）100g 1日1回、あるいは2回外用

上記で改善しない場合

- ・ ジフルプレドナート軟膏 100g 1日2回外用
- ・ デルモベート軟膏 100g 1日1回外用

※皮膚乾燥が顕著な場合はヘパリン類似物質含有軟膏と1:1混合を用いてもよい。

乳幼児では原則 Very Strong クラスの使用を控える。Mild クラスを使う場合は、1日2回外用が必要である。

- ・ メサデルム軟膏 50g 1日1回、あるいは2回外用
- ・ ロコイド軟膏 50g 1日2回外用

<足白癬>

基本的には近医皮膚科外来受診を推奨するが、院内で必要な場合は下記を使用する。

- ・ テルビナフィン塩酸塩クリーム 10g 1日1回外用

上記に治療抵抗性の場合、あるいはびらん面が広範囲の場合は以下を考慮するか、皮膚科にコンサルトとする。

※湿疹を伴い広範囲の場合は必ず皮膚科にコンサルトする。

- ・ ルリコン軟膏 10g 1日1回外用